

及川 見事優勝

U21 男子シングルス

ITTFワールドツアー・オーストラリアオープンⅡ6月8〜12日、オーストラリア・メルボルン

及川瑞基(商1・青森山田高)がU21男子シングルスで見事優勝を飾った。

同大会はITTF(国際卓球連盟)が主催し、世界各地で開催される卓球の国際オープン大会の一つ。

及川は準決勝を終えて、落としたセットはわずか1セット。

決勝では今年の全日本選手権ジュニア男子部門で優勝した木造勇人(愛工大名電高)と対戦した。序盤から着実に点を

積み重ね、第1セットは11-6で相手を圧倒。第2セットは1点を争う攻防の末10-12で取りこぼしたが、第3セットを奪い返し優位に立つと、最後は11-6で試合を締め

及川は「世界ランキングのかかっている国際大会での優勝は、その後の韓国オープン、ジャパンオープンにもつながり、自信が湧いた。決勝で対戦した木造は、高3のインターハイで負けていたので勝ててよかった」と話した。

同ツアーのジャパンオープン(6月15〜19日、東京体育館)では三部航(商1・青森山田高)が、韓国オープン(6月



国際大会で結果を残す及川(写真はジャパンオープン)

悔しい準優勝

女子複 鈴木・安藤ペア

関東学生卓球選手権Ⅱ6月23〜25日、所沢市民体育館

女子ダブルスで鈴木李茄(商4・青森山田高)・安藤みなみ(商2・慶誠高)ペアが準優勝。2年連続で表彰台に立ったが、昨年度は優勝を果た

最終セットまでもつれた準決勝。鈴木・安藤ペアは2-7と大きく差を広げられたが、それでも焦ることなく粘り強さを発揮。怒涛の反撃で9-9の同点に追いつくとジ

ユースの末にこのセットを奪い、決勝進出を決めた。

迎えた決勝はカット型



鈴木(左)・安藤ペア

全日本学生出場へ

関東学生馬術競技大会Ⅱ6月23〜26日、JRA馬事公苑

障害飛越競技では団体

6位、馬場馬術競技では同4位と振るわなかったが、最終日の総合馬術競技では2位と躍進。3種目総合で3位となり、全日本学生馬術大会(10月、JRA馬事公苑)の出場権を獲得した。

大當祥貴主将(商3・栗東高)は「納得できる成績ではない。人馬ともに調整不足を感じた」と反省の言葉を述べたが、「4年次生がいらない中で



全日本学生馬術大会への切符をつかむことができたのはよかった」と安堵の表情を見せた。

大當主将とのコンビで総合馬術競技に出場した馬ともに万全の状態でのめるよう、調整を進めていく。

大當主将とラスベガス号Ⅱ撮影・大河原佳也(文2)

(三嶋球里衣・経営3)

インカレにつなげる3位

関東学生水球リーグ戦Ⅱ5月21日〜6月19日、専大ほか

専大は6勝3敗1分けで3位。1997年の2位以来、19年ぶりにリーグ戦で上位入賞を果たし、目標であるインカレ3位以上に向け、確かな手ごたえをつかんだ。

「得点王を狙っていた」という中山祐弥(経営3・埼玉栄高)は1点差で惜しくないで、みんなから頼られ、指示も出せるようになりたい」とさらなる成長を誓った。

今年3月からアジアジュニア選手権やユニバーシアード代表監督経験者の本宮万記弘さんをコーチに迎え、充実した内容の練習をこなしてきた。

2月から8月まで行われるJAPAN WATER POLO LEAGUEとも対戦。リオ五輪代表

UE2016では大学だけでなく、社会人チーム

選手を多数有するブルボンKZを相手に18-19と健闘を見せた。6試合を終え、勝ち点差1で2位につけている。

期待の新人・市村朋也(経済1・山形工高)が(斉藤葵・商3Ⅱ写真も)

桶田・谷澤組がベスト4に入賞

関東学生バドミントン選手権Ⅱ6月6〜19日、東海大ほか

女子ダブルスで桶田穂(法4・金沢向陽高)・谷澤安衣(商1・日本橋女学館高)ペアがベスト4に入賞した。

このペアの強みは「誰にも負けない気迫あふれる気持ち」だ。1部2部入れ替え戦では第2ダブルスに大抜擢され、チー

ムの一部復帰に貢献している(5月号既報)。

上代沙奈絵主将(文4・青森山田高)・徳本莉穂(法4・金沢向陽高)ペアとの専大同士の対戦となった準々決勝はストリートで勝利。

敗れた上代主将が「予想以上に勢いがあつたし、ショットの質も良かった」と話したように、入れ替え戦からの勢いが続いていた。



ポイントを挙げガッツポーズの谷澤(左)と桶田

専大スポーツ

No. 364

大会結果 予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からアクセス)で確認ください。専大スポーツ編集部 web(http://sensuppo.web.fc2.com/) 大会結果を配信しています。

がって戦えてとても楽しかった」と、谷澤は「やるしかない」という気持ちで頑張った」と振り返った。

今後の目標は「一つでも多く勝利を挙げて一つでも上に行く」と口をそろえる。このペアが成長し、レギュラーを脅かす存在になれば、部のさらなるレベルアップにつながる。

次の大会では、2人が笑顔で「優勝」と書かれた賞状を持っていることに期待したい。

(飯塚恒成・文3Ⅱ写真も)

準決勝で敗れたが専大生選手権Ⅱ10月、大阪勢では唯一のベスト4入り。インカレ(全日本学

桶田は「2人で盛り上